



The

Ken Domon
Museum of
Photography
•
2026
Exhibition

L

O

V

E

託児所の母子 1952年

The LOVE _____ Photographed by _____ Ken DOMON



愛

2026.4.17 Fri

7.12 Sun

入館料 一般900円 / 高校生450円 / 中学生以下無料
開館時間 9時 - 17時 ※入館は16時30分まで
山形県酒田市飯森山2-13 飯森山公園内(土門拳記念館)
電話 0234-31-0028
www.domonken-kinenkan.jp

土門拳が
撮った



土門拳写真美術館
Ken Domon Museum of Photography

土門拳が撮った 愛

The LOVE
Photographed
by
Ken DOMON

2026.4.17 Fri
7.12 Sun

The

LOVE

土門拳は、しばしば「好きなものしか撮らなかった写真家」と称されてきました。仏像や寺院、骨董などは彼の「好きなもの」の代表格。独自のクローズアップ手法によって切り撮られた仏像の姿には、被写体に強く惹き付けられ、凝視し続けた土門の偏執狂的な愛が表れています。

その「愛」は対象が人間でも同様でした。自らの「好きな顔」の筆頭に挙げ、敬愛してやまなかった小説家の志賀直哉や、郷里・山形の先人として少なからぬ影響を受けた歌人の斎藤茂吉のポートレートなどからは、その姿を内奥の人間性も含めて克明に写し留めんとする視座が感じられます。また『ヒロシマ』や『筑豊のこどもたち』といった戦後社会の状況を伝えようとしたドキュメンタリー作品についても「ぼくの好きな日本人が苦悩する様を、横目に見て通り過ぎることができなかった」と、その根底にはやはり愛があったことを語っています。

一方、「日本人については、くだらないなあと思えば投げたくなったこともしばしばだが、こんなにも永く日本文化に取り組んできたのは、やはり日本人が好きだったからであろう」という言葉が示すように、戦争の時代を挟みながら写真の道を歩んだ土門にとって、「日本」という被写体に対する愛はそう単純なものでもなかったようです。

本展では、土門拳が撮影した多様なジャンルの作品を「愛」をキーワードに横断しながら、彼が追い求め表現しようとしたもの、そしてその写真に写り込んださまざまな愛の形を多角的に探ります。

● 学芸員による濃縮還元ギャラリートーク

6月27日(土) / 14:00-14:40 / 参加無料(要入館料)

● 関連イベント

※詳細はお問い合わせください

4月29日(水) こども写真教室
9:30-12:00 / 要予約・参加無料 / 定員15名

5月9日(土) はじめてのフィルムカメラ(フィルムカメラ撮影ワークショップ)
5月16日(土) <全2回> / 要予約・要入館料 / 参加費別途 / 定員10名

5月23日(土) 初夏のミュージアムコンサート
11:00-11:40 / 要予約・参加無料(要入館料)
出演: Kato's Ensemble

6月28日(日) あじさい呈茶
7月5日(日) 要入館料+お茶代

7月11日(土) 七夕のミュージアムコンサート
出演: 花(オカリナ・クラリネット)
14:00-14:40 / 要予約・参加無料(要入館料)

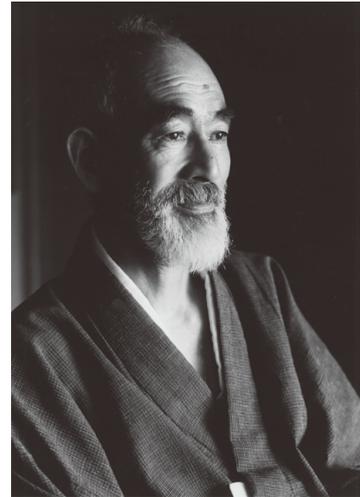
きらいなものはいくら金を積まれても撮らない。
そのかわりいったん気に入ると、
その仏像の、その建築の顔を見るために何回も何回も通いつめる。



ふたり 銀座 / 1955年



孤児たちの家 広島市戦災児育成所 / 1957年



志賀直哉 / 1951年



浄瑠璃寺本堂吉祥天立像面相 / 1965年



室生寺弥勒堂釈迦如来坐像左半面相 / 1966年頃

2026年 4月17日(金) - 7月12日(日)

9時-17時(入館は16時半まで)
※会期中無休

 土門拳写真美術館
Ken Domon Museum of Photography

山形県酒田市飯森山2-13 飯森山公園内(土門拳記念館)
TEL. 0234-31-0028 / info@domonken-kinenkan.jp
www.domonken-kinenkan.jp